

た右手、掌を上向け、五指の指頭を右にさした左手。この両手を腹の前で或間隔を置いて左右にし、同時に両手を左右に忙しげに往復させる。

事実 「ほんとう」と同じ手まね。

支出 「金銭」を表わした手まねを前へさし出す。

磁石 左手の拳（その手甲は左側に向け）の上に、指頭を前方にさした人差指の右手をのせ、その人差指を磁石の針の動くように左右に微妙な運動をさせる。

辞書 「本」の手まね（合掌の両手を本の形に開く）を、辞書の部厚さを表現するため合掌の手を横にねかして、右手（表紙）だけを重々しく開く。

師匠 「先生」と同じ。

地震 五指の指頭を前方にさし、掌を下向けの両手を左右にびったりつけて、前後に揺

さぶる。

次女 第二―生れる―女性（葉指）。「第二」は第一（初め）と同じ要領で掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手を右へ引くと同時に中指と人差指を残して他の三指を折り畳む、即ち二の致。

静か 掌を下に向け五指の指頭を左にさした右手を胸の下部辺りにつけ静かに下に圧え降して行く。心の静まる様。

自然に 「時の流」の手まねで、指頭を前にさした右手の人差指を右から左へ線を描いて移動して行く途中、静かに自然な調子で人差指の指頭を上をさして上げて行く。

思想 「思う」「考え」と同じ手まね。

地藏さん 石―仏―と手まねして、首にはた掛けをつける身振り。

子孫 「祖先」（参照）の場合とは反対に左手の男女を徐々に下降させて行く。

次第に「少し」の手まね（即ち人差指の先僅か下に親指の指頭をつける）をして、徐々に親指の指頭を人差指の根元にずり下して行く。

自重 握り拳の両手を下腹部辺りに、たてに上下に重ね、そのまま上へ引上げる。押をしめること。「しっかりする」の手まねにもなる。

室 掌を内側にして五指の指頭を左にさした右手。これも掌を内側にして五指の指頭を右にさした左手。この両手をかなりの間隔を置いて平行に前後に並らべ二形をつくり次に両手の五指の指頭を前方にさし互に掌を向いわせて前と同じ位の間隔を置いて「」形をつくる。即ち一次二次の両手の姿態で□形を造るわけで、**室**、部屋の仕切り壁を表わす。

實際（実に） 「ほうとう」と同じ手まね。

「しっかり」「自重」と同じ手まね。

失業（失職） (ハ) 誰れもがするように、自分で自分の首を切る真似をして、両手をふらぶらさせる。(ロ) ルンベンの「ル」の指文字（親指と人差指、中指の三指で片仮名のルの形にした）の手をぐるぐる廻わす。

知っている 拳にした片手で胸を叩く。即ち、「胸にある」「胸におさまって知っている」こと。

嫉妬 人差指と中指の指頭で鼻頭の上を交互に打つ。更に両手の人差指で頭に角を表わしてもよい。

失望 「がっかり」と同じ手まね。

質問 「訊く」と同じ手まね。

してから（それから） 上向けた左手掌の上に、右手の掌を叩き降して未来の手まね。即ち右手の掌を前方へ押し出す。左手の掌の上に右手の掌を叩き降すのは「事」の完